



ゆんたく 都島

2019 Vol.31

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

都島友の会 フォトアルバム 2019春～夏

園舎建て替え・改修工事・仮園舎暮らし報告 (都島東保育園・こども発達サポートステーションぞれいゆ
都島乳児保育センター・都島第二乳児保育センター)

都島友の会の様々な取り組み / 放課後等デイサービス 児童デイサービス / 沖縄からの便り

Information (新しい顔、新しい場所、新たな立場) / リクルート活動 / 厚生活動 / 保健・安全対策

本部からの報告 / 「カフェテリアひまわり」オープン!

社会福祉法人 都島友の会



お帰りなさい、 〈もうひとつの我が家〉に。

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子

『福祉はすべての人が健康で文化的かつ快適な生活が守られ、豊かな人間生活が実現できることを内包するものでなければならぬ』— 法人の創設者、比嘉正子の言葉です。

1931年(昭和6年)。日本が大陸へと目を向け進出して行った時代。比嘉正子は養護と教育を併せ持った都島幼稚園を設立、日本の子どもの「育ち」の環境整備に力を注いでいきます。(当時の幼稚園教育の資料は、法人本部資料室にあります)

1945年(昭和20年)終戦。焼け跡に空腹でさまよう親子があふれる中、何をすることも資材乏しき時代にあつて、「もう一度子どもたちの園を作ってください!!」との母親たちの熱い願いに支えられ、苦心に苦心を重ね、ようやく集めた貧しい資材で出来たのが都島児童館。戦後の法人の再起となる園舎でした。粗末な建物、それでも母親や子どもたちは待っていてくれました。卒園児たちが石を拾ったり、運動場の整備を手伝ってくれたり…。職員、保護者、地域の方々の力を結実したつつましい、しかし希望に満ちた園舎でした。その後法人は長時間、短時間を併設した保育部・幼児部の創設、全国に先駆けた乳児保育や障がい児保育、学童保育へと活動を広げていきます。

法人では、「人の誕生から最後まで」人の生涯を包括する福祉を行いたいとの思いがあり、特に高齢者福祉を実践したいと思っておりましたが、なかなか夢は果たせませんでした。

1991年(平成3年) 都島桜宮保育園開園の際、〈子どもから高齢者まで〉を包括する福祉ゾーン(街づくり)を計画しましたが、諸事情から老人施設を手掛けることを諦めざるをえませんでした。

1997年(平成9年) 友渕地域、北部運動公園の一角で、デイサービス(通所介護)をやってみないかとお話があった。披露、当日参加者861名。4月、特別養護老人ホームひまわりの郷の門出となりました。

こうしてようやく、法人の乳児から高齢者まで、人の一生を包括する福祉への想いを実現することができました。

〈ひまわりの郷〉のコンセプトは、「ようこそ、もうひとつの我が家へ」。入居者が我が家におられるような気持ちでお暮しになれるように…。そのため建物の各階も1丁目、2丁目、3丁目、4丁目、5丁目と名付け、各室は○の番地と、ご近所のようなしつらえに…。今までの住み慣れたお家と同じ訳にはいきませんが、病院とは違った居室づくり、環境づくりに努力しました。

法人の創設、都島幼稚園の第一期生も今や95歳近くになられます。ご自分が幼稚園に登園し、今度はお子たち、そして孫たちが登園。やがてデイサービスを利用され、〈ひまわりの郷〉に入居された、お顔馴染みな方もおられます。本当に、「ようこそお帰り頂きました!!」。

現在では最長老104歳の方を筆頭に、ボランティアの皆様や家族会のお力にも支えられ、カラオケ、お絵かき、習字、詩吟、季節の行事やお誕生会等、イベントやコンサートと盛りだくさん。中でも法人の保育園児との交流は皆さま待ち遠しいようで、毎週どこかの園児が訪問して来ると、子どもたちの可愛いしぐさ、握りしめる手、ハグしてくる温もり、心ときめかし、頬がゆるみ、日々への活力源の一つになっておられる様が伝わります。

〈ひまわりの郷〉も開設16年が経過しますと、補修、改装が必要になります。昨年までに空調設備121台入れ替え、浴室の個浴への整備変更、各階、廊下、居室のクロス張替や防水、熱中症や感染症等の予防設備も整えました。

今年4月には1階の集会室を大幅にリニューアルし、誰もが気軽に利用できるカフェテリアひまわりを開設しました。オープンテラスでコーヒーや軽食を楽しみながら、入居者の方をはじめ、ご家族、地域の人たちなど、様々な人々が語り、

予定地は元カネボウ(株)様から、(大阪市経由で都島友の会へ指定給付を受け)設計、補助金申請を急ぎました。当時は大阪市の指導も懇切丁寧でした。

1999年(平成11年)1月 友渕地域在宅サービスステーションひまわり竣工式。鉄筋コンクリート造、地上3階建。高齢者の保育園とのイメージを描いての出発でしたが、さまざまな人生や生活環境で過ごされ、自身の体調も年齢も異なる方々の集まり…。一人ひとりに寄り添いながらも、子どもの保育とは全く異なる課題や難しさもありました。しかし現在では25名〜30名の方が健康チェック・入浴、季節感ある食事を楽しみ、レクリエーションや仲間づくりを楽しんでいます。

2000年(平成12年)年の初頭、都島東保育園隣りの大阪市水道局の空き地に、高齢施設予定の公募。但し競争率が高く、4法人の激戦です。法人の保育園隣接地であること、デイサービスの経験もあること、法人の長年の地域福祉や地域貢献等々、プレゼンテーションに全精力をかけました。同年12月、特別養護老人ホームの設置の決定を受け、夜に屋に設計の先生方と打ち合わせ、「私が入居するならこんなのが…、あんなのが…」と議論を重ね、また予算範囲内で足を出さないよう、借入が少なく済む方法を考えるなど、法人全施設の中で考えられることは全て出しきり、その結果認められた時の嬉しさはたまりません。設計はプレゼンテーションを受ける時に充分なるものができており、業者入札、近隣説明、とんとん拍子に進めることができました。

2001年(平成13年) 鉄筋コンクリート造、地上6階建築工事着工、9月、工事半ばで入居願書受付。80名定員に268名が申込み。

2002年(平成14年)2月、工事終了。入居準備、事務処理、職員研修、建物の使い方(安全管理)。3月、竣工式。見学たいと希望される入居者様、ご家族様に寄り添えるよう、昨年度から、委員会、研修、話し合いなど準備を進め、今年5月現在、お二人の方を看取ることができました。

特に看取り介護の実施は、ひまわりの郷での最期を迎えたいと希望される入居者様、ご家族様に寄り添えるよう、昨年度から、委員会、研修、話し合いなど準備を進め、今年5月現在、お二人の方を看取ることができました。

今後は法人の高齢者施設デイサービスひまわりと特別養護老人ホームひまわりの郷での職員間の交流、職員間の一体感を高め、地域高齢者の包括的なケアの推進を図ってまいります。また介護職員の人材不足の改善として外国人技能実習生制度や外国人介護士の採用と共に、職員が仕事に喜びや生きがいを感じ、遣り甲斐をもって勤めることの出来る職場環境づくりを進めることで、お一人おひとりがその生涯の最期まで安らかに過ごされる介護を目指していきたいと考えております。ようこそ、〈もうひとつの我が家〉へ！お帰りなさい、〈もうひとつの我が家〉に！





神輿だ! あっしょい!



氷のかけっこだあー

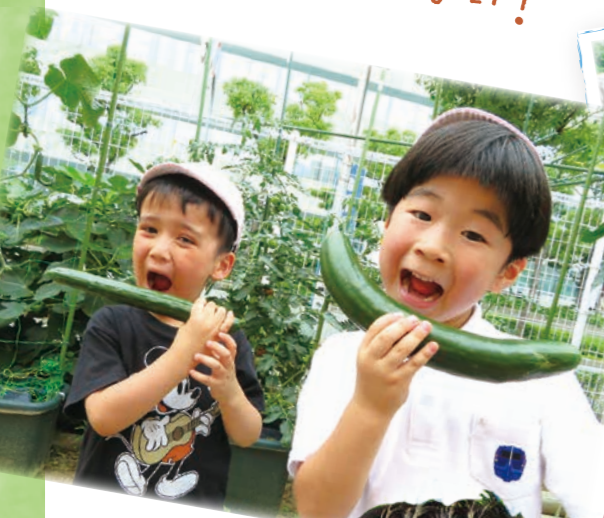


新しい令和の時代



ふかふかの
草のじゅうたん

都島友の会 フォトアルバム 2019 春～夏



きゅうりを
がぶり!!



なすび
GET!!



イチゴ
いただきます



泥んこ遊び
楽しい〜



石がツルツルしてるよ!



さくらんぼの実が
なってるよあ〜



春を満喫!

仮園舎暮らし

都島東保育園



中庭で体操



中庭給食



お楽しみ会

仮園舎の暮らしも、子どもたちには出会いと発見の連続です！



幼児クラスの春の恒例行事、

「親子ふれあいDay」を今年も開催！

園の周辺をゆっくりまわったウォークラリー。「子どもたちが普段、どの道を散歩しているのか、どの公園で遊んでいるのかなど、地域をいろいろ知ることができて、良かった！」との声を保護者の方からいただきました。

多忙な毎日、親子で一緒に体を動かし、手をつないで歩くことも少なくなった中、親子の仲睦まじい姿に、私たち保育士も心温まりました！！

「親子ふれあいDay」は、普段は仕事や家事、育児で忙しく、なかなか子どもとの時間を作るのが難しいという保護者の方も、親子で一緒に同じ体験を楽しみ、触れ合う時間を大切にすることを目的とした都島東保育園、恒例の春の行事です。



ウォークラリーに出発！！



園舎建て替え工事のため、仮園舎での生活がスタートして、はや一年が経ちました。元気な声とたくさん笑顔で、子どもたちは仮園舎での生活を満喫しています。いつしか地域の方とも顔見知りになり、桜通り商店街を通るときにはお店の方に子どもたちから自然に挨拶、会話をしたり笑顔で手を振り合うことが当たり前前の光景となりました。

新園舎建て替えの現場では、着々と工事が進んでいます。子どもたちと散歩で工事の様子を見に行くと、「どうなっているのかなあ」とのぞき込み、興味津々!!保護者の方と工事現場を一緒に見る機会がある子どもからは、「大きなクレーンがあった」、「いっぱい機械があったで」など、日々の工事の変化、工程を楽しんでいるのがわかります。

一年間過ごし、いつの間にか職員にとっても子どもたちにとっても愛着のある場所となった仮園舎。あと数か月で新園舎に引っ越しを予定していますが、残りの日々を楽しんで、仮園舎でのたくさんの思い出を作りたいと思います。



おーし次ほ?

クイズの答えはどーかな?



ゴール!!お疲れ様!!



ゴールも目指して



写真で見る

工事現場の様子



2019.6

工事の風景が日に日に変わっていきます



2019.5

大きなクレーン車が設置されました



2019.4

基礎工事がスタート



2019.3

更地になりました



2019.2

クレーン車が登場!!



2018.12-2019.1

跡形も無くなってしまいました



2018.11

少しずつ園舎が壊されていきます

新園舎での保育は、令和2年6月を予定しています。木の温もりのある安全で快適な園舎で、これまで積み重ねてきた乳児保育をもとに、子ども一人ひとりの成長を大切にしながら、保護者の皆さまが安心して預けていただけるように保育環境を整え、安全保育を心掛けていきたいと思っております。

新しい園舎は、法人では初の木造（枠組壁工法）の建物となります。3階建て延床面積は615.25平方メートル。0歳〜2歳児、定員90名の都島乳児保育センターとなります。

このため建替にあたり、大阪市の平成31年度民間保育所建替整備補助事業の申請を行い、承認をいただき新築工事に着手することになりました。建設場所は、幼保連携型認定こども園都島児童センター東側2軒隣（昔、高木小児科医院跡地）の都島本通3丁目4の14です。

日本でも最初の乳児保育の専門施設として開設された都島乳児保育センターの建物は、築53年を経過し、老朽化が著しく、また耐震基準にも課題がありました。

都島乳児保育センター 新築工事が始まります



8月23日に行われた地鎮祭



仮園舎暮らし

こども発達サポートステーションそれいゆ

それいゆ仮園舎での生活にも慣れ、4月から新しいお友だちが増えて賑やかにになりました。



とれたてのきゅうりはとげがチクツとしてびっくりしたけど、クッキングはたのしかったよ



電車大好きのお友だちは、電車が通過すると大興奮で手を振って見えています〜



手狭な仮園舎ですが、プレイルームを工夫しながら、体幹を意識した遊びもとりいれています



水遊び大〜すき！時には大きな園外プールも体験して夏を満喫！



カラフルな装いに一新!!

▲防水工事をされた屋上と新しい遊具

新しい遊具の中で遊ぶ子どもたち▶



都島第二乳児保育センターの 改修工事が始まりました

2019年4月下旬より、都島第二乳児保育センターでは、外壁の塗装工事、サッシの取り換え、屋上の防水工事を行いました。



第二乳児保育センターが出来たのは昭和48年（1973年）。46年の月日が経ち、長年使用した外壁や窓枠の塗装が剥がれ、サッシの劣化が進みました。新しくなった外壁は今までの動物のイラストからやさしいクリーム色を基調としたものへ。窓枠はオレンジ色のビビッドなイメージへと変身！全体が明るくカラフルな印象となりました。安全対策としての補強も行い、壁面全体を保護することで耐久性を高めるように修繕しました。屋上は防水工事を行い、プールや水あそびを行う中で、子どもたちがより安全に、楽しく遊べるようになります。また新たな遊具も備え付けられました。

今後は、内部のリノベーションも予定しており、安心安全を第一にお化粧直しのできるようになった都島第二乳児保育センター。子どもたちの気持ちもはずみ、これからの生活も楽しみます。

2019年11月 完成予定!!

完成まであと少し!!



完成予想イメージ



立体的な骨組みができてきました



床に鉄板が！建物らしくなってきました



遊ぶ

体育あそび

- 相手のことを思いやる
- 「みんなでやる」仲間づくり
- 「分けてやる」役割分担や協力
- 「仲良くやる」気持ちのコントロール
- ルールを守る・つくる
- 譲る・我慢する
- あきらめずにやり遂げる

社会性／協調性



一人ひとりの子どもたちの「生きる力」を育んでいきます。

新しい時代。私たちは、輝かしい未来にむかって、

グローバル化やAI、高度情報化によって、私たちの生活や仕事のあり方が大きく変わろうとする今。それに伴い、子どもたちの受ける教育もまた、大きな変革期を迎えようとしています。特にいま重要視されているのが、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期と考えられている乳幼児期の教育・保育です。

2018年保育所保育指針の改定で、これまで以上に養護と教育が一体となった保育が求められ、乳児期の段階から就学以降の姿を視野に入れた一貫したカリキュラムで行う教育保育の姿が示されました。2020年には小学校から新しい学習指導要領で示された教育が始まります。中でも特筆すべきは「アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）」という考え方です。新しい時代に求められる資質・能力を育成するため、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく…。そのために子どもたち自身が、学ぶ楽しさを知り、興味のあることを見つけ、対話や優れた考え方を手掛かりに自らの課題や問題を見いだし解決していける力を養ってほしいとの願いが込められています。

私たち法人は創設以来、養護、教育一体となった保育を進めてきました。その保育の伝統を大切にしながら、子どもたちが「あそび」を通して、自らが学び考え、解決できる力、未来に向けた大切な力の素地を、幼児期の段階から身につけていける環境づくりをしていきたいと考えています。新しく希望に満ちた未来、そして予測困難なこれからの時代に向けて、子どもたち一人ひとりの「生きる力」を育んでいく…。そのための取り組みをこれからも積極的に進めていきます。

学ぶ力

- 数える・比べる・はかる
- 調べる・探求する
- 言葉や文字で表す・読む・伝える
- 法則性や規則性を発見する
- 「なぜ」「どうして」の疑問がわく
- 「できた」「わかった」を知る楽しさ



音楽あそび



英語あそび



プログラミング

特別活動



体づくり

- 体を動かす・強くする
- 自然にふれる・遊具を使う
- やってみる・挑戦する
- 運動技能を高める
- 「危ない」を体で知る

創造する力

- 感じる・想像する・表現する
- 絵を描く・ものを造る
- 自ら工夫する・アイデアを出す
- 感覚や感性を高める
- 個性の芽を育む

幼児

(3~5 歳児)

乳児

(0~2 歳児)

五感を使って、あそびの中で人と関わることの楽しさを学びます。



～看取るといふこと～

真の“終(つい)の住処(すみか)”であるために。

ひまわりの郷で看取り介護を開始して、この7月で9ヶ月となります。実際に看取り介護を実施する体制を整えるために昨年4月より準備や研修を重ね、10月より看取り介護を実施出来るようになりました。また看取りを行う上でご家族のための休憩室(看取り室)を設けました。看取りが始まり、疲労が溜まってくる際に休憩をとって頂くための、空調設備やちょっとした調理ができるキッチンを設置しています。

なぜひまわりの郷で看取り介護を取り組もうとしたのか。昔は、人は家で生まれ家で亡くなるのが一般的でしたが、医療技術の発達発展に伴って、いつしか病院で生まれ病院で亡くなるの方が一般的になってしまいました。「終の住処(すみか)」として入居される特別養護老人ホームでも病院と比べれば医療体制は不十分であり、結局、症状が悪化した場合は病院に搬送されることになっていました。看取り介護は延命治療を行わず、病院への搬送は行いません。住み慣れた施設で枯れるように自然に最期を迎えたいとの希望が増えている理由からです。現在、特別養護老人ホーム全体の約7割が看取り介護のサービスを行っており、入居者全員に看取り介護の計画を定めている施設は約5割にのぼると言われています(2018年4月の段階)。病院と比べると医療体制が不十分な特別養護老人ホームは、入所者の症状が悪化した場合は病院に搬送されることになっていきますが、看取り対象の入所者の場合は延命治療を行わず、病院への搬送は行いません。住み慣れた施設で、枯れるように自然に最期を迎えたい、とのニーズが増えてきています。

私たちひまわりの郷で多くの時間を共に過ごした入居者さまを看取ることには寂しい気持ちもあります。しかし入居者さまが病院へ搬送された後に亡くなられた連絡を聞いてもその死をなかなか受け入れることが出来ませんでした。しかし看取り介護に取り組んでからはその方の死を受け入れることが出来るようになりました。人の死と直接関



線から面への交流強化へ

地域・小学校との連携を軸に

都島児童館の取り組み

厚生労働、文部科学両省は「放課後児童クラブ(学童保育)の定員を、2019年〜2023年度の5年間で30万人分拡大し、計152万人分とする新たな計画を公表しました。希望しても利用できない待機児童が1万7千人を超える現況を踏まえて、国を挙げての対策です。

今年度、私たち都島児童館でも新たに80名近くの児童が入所、総勢240名の規模となり、高倉生活クラブも移転するなど環境も大きく変化してきています。その中でこれまで以上に子ども一人ひとりに向けた健全育成に力を注ぎ、きめ細やかな安全管理を図るため、昨年度まで全体で1名だったリーダー職を今年度からは北地区【友湖・高倉・御幸】と南地区【都島・中野】で各1名ずつ配備、職員間での情報共有や連携の強化に取り組む、子どもが安心して過ごせる都島児童館を目指しています。

ただ今日の複雑化した社会の中では、子どもたちの健やかな育ちを私たち都島児童館や職員間の連携強化だけで見守っていくことには限界があります。保護者、小学校、そして地域を軸に、子どもたちを取り巻く環境、いわば“線”ではなく“面”のなかで緊密に連携し、見守っていくことが不可欠であり、そのために私たち職員がどのような活動を行えば保護者や小学校と連携を図れるかを模索し、その一つの試みとして昨年度からFacebookを使って、保護者や地域、小学校等への情報発信と情報の共有を図っています。Facebookの開始は小学3年生以上になると1人帰りをする子どもが増え、保護者と情報共有できる機会も少なくなってしまうので、保護者の安心や信頼につながればとの想いも込められています。一方、月に1回私たちが発行しているお便り「そらまめ通信」を各小学校へ配布することも始めています。当初、お便りを配布するだけで子どもたちの様子を小学校と情報共有する機会が少なかったのですが、回

数を重ねるうちに日常の様子や仲の良いお友だち、怪我や喧嘩のトラブルなど、様々な子どもたちの様子を共有できる大切な媒介となってきました。

今後は【家庭】【学校】【学童】の連携はもちろん、公園での地域の子ともたちとの関わり、公共施設を積極的に活用するなど、子どもたちの活動の幅が広がる交流も視野にいれ、線ではなく面で、片方向ではなく双方向で、健全な育成に繋がるような様々な人々と協力しながら取り組んでいきたいと思っています。



都島児童館の情報発信ツール Facebook(上)とそらまめ通信(下)

わることで人の生命力や命の尊さを深く感じ、その意味でも看取り介護に取り組めて良かったと思います。

入居者さま自身、自ら望んで介護施設に入所する人ばかりではないと思います。病気になる、家では生活することが困難な方がほとんどです。でも最期に『ひまわりの郷に入所して悪くはなかった』と、少しでも思っていただけでも、その方の真の“終(つい)の住処(すみか)”であるように、普段の介護はもちろん、安らかな最期を迎えられる看取り介護が出来るように、これからも精一杯、取り組んでいきたいと考えています。

空調設備や小さなキッチンを完備した看取り室



地縁や地域社会、沖縄の文化と共に子どもたちを豊かに育みます。

地域や地縁的なつながりがだんだんと薄くなりつつ今、私たちは家庭や地域との交流や支え合いがあつてこそ、子どもの健やかな育ちがあると考えています。また保育の中に沖縄のわらべ歌や方言(うちなぐち)を楽しく取り入れるなど、文化の伝承にこれまで以上に力を注ぎ、子どもたちの心に豊かな「原風景」を育んでいこうと考えています。

吉嶺さんを迎え首里金城町の歴史を聞く

渡保育園のある首里金城町の石畳から一本路地に入ると「首里金城町大アカギ」という樹齢300年を超える巨老木があり、その地はムーチー由来の地でもあります。今回は渡保育園保護者のOBであり、語りでもある、地域の吉嶺さんより、鬼ムーチーの由来や昔の金城町の様子などお話を伺うことができました。お話し会の場所となったのは石畳途中にある赤瓦の古民家(金城町村屋)。松島保育園と渡保育園5歳児24人が参加しました。目の前には大きながじゅまるの木があり、のどかな雰囲気の中、お話し会が始まりました。

むかしねえ、悪さをする鬼がいてねえ…吉嶺さんの話が始まりました。

「鬼？」と驚いた表情で、話にどんどん引き込まれる子どもたち。鬼になつた兄をムーチーで退治する最終場面では目を丸くして真剣に聞き入っていました。物語が終わり、「鬼はいないの？」と子どもたち。「もうここには鬼はいないよ。」の吉嶺さんの言葉に、ほっとした空気になりました。

「みんな首里城にいったことあるねえ？」吉嶺さんの話が続きます。

昔、首里城には王様が住んでいて、識名園に行く時、中間地点のここ金城町が休憩所になっていて、王様は隣の家で(当間家)休憩したんだよ

隣の当間家は戦争の中、唯一残つた家の一つ、おじいちゃんがよく遊んだ場所だよ。池があつて魚もいっぱいいたさあ！あの小さな道は戦車も通つたんだよ！今では考えられ



新垣菓子店にちんすこうを買いに行きます(^^)



渡保育園の近所には、創業80年以上の歴史をもつ、老舗新垣菓子店があります。その店で売られている、お菓子ちんすこうを買いに、5歳児がお出かけしました。

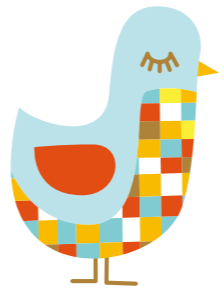
「こんにちは、ちんすこうください」と元気な声の5歳児。準備している間に、「ちんすこうはなにできていますか？」と質問する子が、「小麦粉と砂糖とラードですよ。型にはめ焼くんですよ」と店内に飾られている型をみせてもらいました。帰る際には、一人一人にお土産をいただき、大喜びの子どもたちでした。

※ちんすこうは、琉球王朝の王族が祝儀の際に食べるお菓子でした。今でも沖縄を代表するお菓子として、広く人々に親しまれています。

ないよね。話は盛り上がりません。

戦前は木々におおわれていたが、戦後は焼け野原となつた写真を見せて説明してくれました。あの頃、おじいちゃんたちは毎日お腹を空かせていたよ。今は好きなものを好きなだけ食べられるでしょ。平和な世の中では幸せだよ。沖縄戦体験者の吉嶺さんの話には、戦争の怖さがひしひしと感ぜられます。

戦争は物を破壊するだけじゃなく、人の心もダメにしてしまう。みんなも友達とは喧嘩しないで仲良くするんだよ。英語も勉強していろいろな国の人と友だちになりなさい。みんなが仲良くすることが平和に繋がっていくんだよ。戦争のない平和な世の中になつてほしい、一人ひとりに優しく語り掛ける吉嶺さんの願いはきつと子どもたちの心の中にもいつまでも残り続けることと思います。

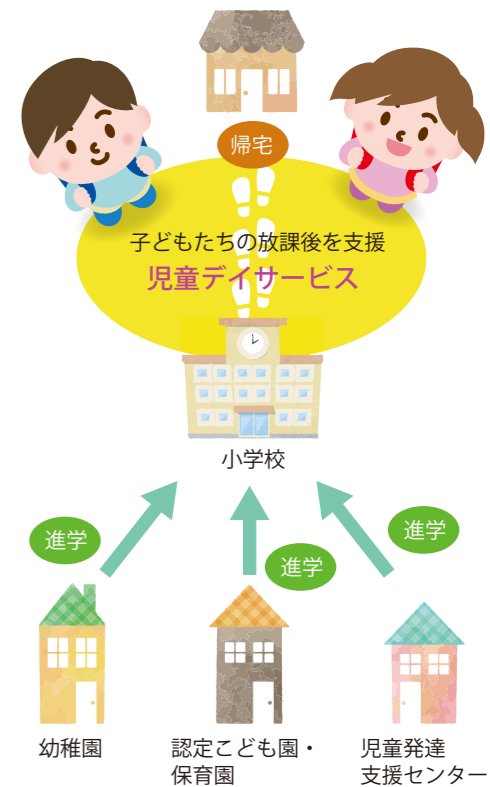


子どもたちが元気になる場所 児童デイサービスって、どんなところ？

都島友の会の子ども発達サポートステーションそれは、就学前までの子どもたちを対象に、発達に心配のある子どもたちのための療育・相談施設です。子どもたちがコミュニケーション能力を身につけ、自分の力を生活の中でイキキと十分に発揮できるように支援をしています。

それゆえを卒園した子どもたちの保護者の方々から、小学生になってからも切れ目なく支援が受けられる場所が欲しいとの要望が多数寄せられていました。そこで法人では小学校に通う、発達に心配のある子どもたちや障がいのある子どもたちのために、『都島児童デイサービス』を開設、その後、城東区にも『児童デイサービスせいいく』を設けました。『児童デイサービス(放課後等デイサービス)』は、障がいのある子どもたちが放課後のびのび過ごせる居場所であるとともに、子どもたちが元気に成長するための基礎(土台)づくりを学ぶ場所でもあります。

放課後等デイサービス



児童デイサービス(放課後等デイサービス)

児童デイサービスは、児童一人ひとりに応じた療育支援計画を作成し、子どもたちの自立や日常生活をいきいきと充実させるための様々な活動を行っています。

学習支援 集団生活に適応することが出来るよう、言葉・読み・書き・計算など基本的な学習支援を柱に、個々の児童の可能性を引き出していくことを目指します。一人ひとりにあつた課題に取り組み、「出来た」の経験を積み重ね、自己肯定感を育んでいきます。

グループ療育 学校の様子や発達段階を把握し、学習面、コミュニケーション面において、どこでつまづいているのかを把握し、個々に合わせた課題に取り組みます。また友だちとのやり取りや社会のルールに気付き経験を様々な活動を通して実施しています。

わらい 4~5人の小グループで行います。小さな集団の中で大人や友だちと一緒に遊び、人とかかわることの大切さ楽しさを学んでいきます。ルールや友だちとの関わり方、自分の気持ちや相手の気持ちに気付く経験をST(ソーシャルスキルトレーニング)に取り組みます。困つた時に尋ねる・適切な方法を考える等、社会生活を助ける力を身に付けられるようになります。

活動内容 状況を予測したり、見通しを持って取り組む事が苦手な傾向がある為、「いつどこで、たが、何を、いつまで」を明確にする等、見える化した環境を構成し、何をやるかを理解し自発的な行動に繋がります。友だちと楽しさを共有することで、ルールを意識して活動することを評価し、適切なやり取りや困つた時にどうすればいいのか一緒に考えながら活動しています。



他にも



詳しくは
 『子ども発達サポートステーションせいいく』 06-6925-5510
 『都島児童デイサービス』 06-6924-9991
 『児童デイサービスせいいく』 06-4255-6660
 までお気軽にお問い合わせください。

都島友の会の児童デイサービスでは、1歳~就学前の未就学児・幼稚園・保育園に通園されている方を対象に、週に数日通園しながら生活と遊びを通して基本的な生活習慣を獲得する為の支援を行っています。

カフェテリアひまわり 中田はづき



ひまわりの郷のオープンとともに働きはじめ、その中で結婚、出産をし、育児休暇を経た後に仕事復帰、今回、4月22日にカフェテリアひまわりオープンに伴い、介護の現場からカフェの担当になりました。
カフェテリアひまわりでは、特養に入居されている方や地域の方の憩いの場として、年代問わずみなさんが楽しく交流できる場を提供していきたいと思っていますので、お気軽にご来店ください。朝食でもよし、昼食でもよし、おやつでもよし、ちょっと早い夕食でもよし、いつでもよし、お待ちしております。おすすめはマンゴージュースです。



こども発達サポートステーション それいゆ 北村 豪



働き始めてから数カ月経ちました。わからないこと出来ないことがたくさんあり、その都度先輩方に丁寧に教えてもらっています。子どもの成長を見守る中で私自身も成長していきたいです。

都島友渕乳児保育センター

「目標は小さく具体的に、夢は大きく」
小さく具体的な目標であればより取り組みやすく実行しやすい。やらなきゃと思うよりも、やってみたいと思えたほうが長続きする？と自分に言い聞かせる。小さな一歩がやがては大きな夢につながっていくことを信じて…
園長として、子ども・保護者・保育士への気配りを常に心がけること。そして、現場で働く保育士の声を聞き、働きやすい環境づくりを目指します!!



明るく笑顔で 気持ちよく!
はい、よろこんで!
なんでもかんでも よろこんで!

施設長 岡本千恵

主任 山本麻里

初めての異動を経験し、4月から新たな場所で新しい仲間とスタートをきりました。まだまだ分からないことも多いですが、チャレンジを恐れずポジティブに!どんなことにも「はい喜んで!」日々の学びを大切に、子どもたちと一緒にステップアップしていきたいです。

認定こども園 都島児童センター 阪口 緋梨



4月から働き始めて、初めは新しい環境に慣れていくことに必死でした。わからないことも多く、不安なこともありましたが、同じクラスの先生を始め、先輩の先生方が丁寧に教えてくださり周りの先生方に支えられてこの仕事が出来ていると思っています。毎日子どもたちと関わる中で、子どもたちの成長を感じ、その成長の手助けが出来るとこととでもやりがいを感じます。子どもたちと一緒に過ごす毎日は大変なこともあります。充実して楽しいです。私自身も子どもたちと日々成長して頑張っていきたいと思っています。

認定こども園 都島児童センター 副園長 守屋美智子



児童センターへ10年振りに戻ってきました。子どもたちとおしゃべりしながら、成長をそばで感じることや保育の楽しさを改めて実感しています。保護者の方とも子育てを共に楽しく笑いにできるよ、たくさんお話していきたいです。高校生や成人した卒園児の子どもたちが、会いに来てくれることもあり、私の励みになっています。いつでも戻れる場所に「ここがある」を子どもたちや保護者の方に伝えていきたいと思っています。

都島東保育園 井上朱里

私は、学生時代に都島東保育園で実習をさせていただき、保育士と子どもたちとの信頼関係や園の明るい雰囲気の魅力を感じ、「ここで保育士として働きたい」と思い就職を決めました。

実際に働き始めると、最初は子どもたちどのように接したらよいのか、例えば注意する際の声掛け、子どもの前に立って話す時に自分にどう視線を引き付けるのか、等々、分からないことだらけ…、落ち込む日々でした。しかし先輩方に相談するとそのたびに分かりやすく丁寧に教えてくださり、それが様々な視点から保育を考える糸口となり、また自らが経験し失敗することが、とても大きな学びとなったように思えます。今では少しずつですが手遊びをしたり絵本を読んだり日々試行錯誤しながら保育を行っています。大変なこともありますが、笑顔と元気いっぱいの子供たちと遊ぶ毎日が楽しいです。これからもたくさんの方を都島東保育園で学び、明るい元気な保育士になれるよう子どもたちと一緒に成長していきたいです。



Information
新しい顔、新しい場所、
新たな立場からの想いを届けます。

今年、都島友の会にやってきたキラキラ輝くニューフェイスたち。
一方、異動や昇格を果たし新しい場所、新たな立場で、
今年度を迎えた園長(施設長)、副園長、主任…。
法人の未来を担う、みずみずしい声、元気な声をお届けします。

認定こども園 桜宮児童センター

今年度「都島桜宮 保育園」は幼保連携型認定こども園へと移行し、「認定こども園桜宮児童センター」になりました。園長となって9年ぶりに戻ってきた園舎はリノベーションされ、すっかり新しくなって浦島太郎のよう…。

182名の子どもたちと35名の職員と共有する生活は、子どもたちが安全に過ごせるように、保護者の皆さんに安心して預けてもらえる園であるようにと、日々緊張の連続です。

それでも毎日子どもたちと過ごす中、子どもたちの成長にワクワクした喜びがあり、保護者の方々との交流の中では新しい発見や学びがあり、「あ〜大変だったけど楽しかったな。」と一日を振り返ります。

子どもたちとともに、副園長や主任に助けをもらいながら、自分自身もさらに成長していけるように、毎日生き生きとした時間を楽しく過ごしていきたいと思っています。

園長 岩本真弓



園長 岩本真弓

副園長 西田直未

主任 石神みゆき

私にとっての桜宮児童センターは、都島桜宮保育園が設立された時、再就職で帰ってきた思い出の地です。地鎮祭の参加ではじまり、その後、この園でさまざまな出会いと多くの経験をさせて頂き、お陰さまで保育士として今日まで続けることが出来ました。その懐かしい桜宮児童センターへの異動。これからはここで、恩返しではなく、つながりついで「恩送り」ができればと思っています。

副園長 西田直未

今年度、主任の辞令を受け、自分がその任務を果たせるのか、不安でいっぱいになりましたが、岩本園長、西田副園長と共に、笑いの絶えない事務所で仕事することが楽しく、気持ちがあっさり楽になりました。

この1年、園長と副園長と力を合わせ、桜宮児童センターを、子どもたち、保護者の方々、職員みんなが、毎日来るのが楽しみな場所にしたい、そして主任としての仕事をしっかりと学んでいきたいと思っています。

主任 石神みゆき

水木会



多くの仲間との絆を大切に、法人全体を考えていく

施設長、園長、副園長、主任で構成される「水木会」。新たに水木会に加わった仲間の歓迎を兼ねて、6月18日、太閤園で食事会が行われました。各園・各施設の新年度、新体制を迎えるの現状報告とともに、新しい時代に向けて大きく変わる教育や保育について理事長の話…。法人として私たち自身として考えていかねばならない課題に気持ち引き締まることにも、多くの仲間たちとの絆や連携のチカラ、協力的体制に元気をもらった食事会でもありました。

夏の疲れもリフレッシュ!!

ビールパーティー



当法人では比周会（ひまわり会）というものがありません。昭和53年に職員の親睦を図る目的で結成され今年で41年目を迎えました。名前は初代理事長比嘉正子先生の比嘉の「比」と、正子先生の旧名、周子の「周」を合わせたものです。毎年、比周会主催で年末の忘年会と夏のビールパーティーを開催しています。今年のビールパーティーは、沖縄の渡保保育園と松島保育園から稲福主任、伊禮主任が初参加。都島東保育園と桜宮児童センターの職員たちの趣向を凝らした余興をメインに、突然、友誼児童センターの職員のサプライズ参加など、楽しいひと時を楽しみながら、おいしい料理をいただき、夏の暑さを一気に吹き飛ばしました。



都島友の会のリクルート活動



今年は職員自らが考え、自らの手で作り上げる活動を目指に!

今年度のリクルート活動

都島友の会では2020年度の職員採用に向けて、新たな採用活動をスタートさせました。今年度は、法人の魅力や職員の魅力を伝えるため、職員自らの手で作り上げる活動を目指に、法人説明会に力を入れています。6月と8月に行った説明会では、職員が作成した各園紹介のDVDを上映し、私たちが普段の保育の中でどのようなことに充実感を感じているのか、子どもたちに寄り添う姿、保護者の方々との交流、そして職員同士の親密な繋がりなど、私たちの考える法人の魅力を存分にナレーションや映像で表現、PRしました。また子どもたちに人気の♪パプリカのダンスを上演、実際の保育での取り組みの様子として一緒に踊り体を動かし、体験してもらいました。説明会では、法人の若手職員が一人ひとり、学生から社会人になった際の不安や心配、保育を行う喜びや楽しさなど、自らの体験談を交えて話をし、参加者からは保育者としての心構え、給料についての質問など、同世代ならではの会話も弾み、和やかな空気になりました。お昼はこの春完成したばかりのカフェテリアひまわりで、ランチ会を開催しました。



▲DVDを使った各園紹介

今年は、18チーム 217名が参加!



ひまわり会 バレーボール部



3位



みんなの笑顔は金メダル!

法人には35年以上の伝統を誇るバレーボール部があります。先輩方が「保育だけでなく、みんなが楽しめるレクリエーションも」とつくってくださいました。その想いは今も受け継がれ、メンバーが入れ替わりながらも、年齢・役職を問わず、ボールを追いかけて、汗を流し、皆で「青春」をしています。今年も7月7日（日）、第44回大阪民間社会福祉事業従事者共済会バレーボール大会が開催され、「ひまわり会MIYAKO」「ひまわり会SII-MA」の2チームが参加しました。試合に向け、都島区のママさんバレーボール部の方々と練習試合をさせていただき、「チームの力を発揮するのは今でしょ!」と心を一つに頑張りましたが、力及ばず…。今年「ひまわり会MIYAKO」が3位という結果に終わりました。「なぜ、仕事終わりのゆっくりしたい時間にクラブ活動?」と疑問に思われる方もいらっしゃると思いますが、「ひとつの目標に向かって好きなことを楽しむ」仕事への活力・ストレス発散!心も身体もリフレッシュに繋がること、また、「法人内のたくさんの職員・地域の方との関わり」チームワークを育み保育の幅を広げ、地域に根ざした社会福祉法人に繋がっていること。それが、クラブ活動の魅力です。来年こそチーム力No.1で、輝く金メダルを手に入れられるよう、頑張っていきたいと思っています。



▲職員が作成したDVDを上映し、ナレーションや映像で法人の魅力をわかりやすく説明しました。

◀説明会の後、和やかなムードで行われたカフェテリアひまわりでのランチ会

今年も養成校への学校訪問も積極的に行っています。卒業生が保育現場で働く魅力や就職活動におけるアドバイスや、子どもへの「やりたい」を実感する瞬間に出会う喜びを感じてもらえるように心掛けています。採用活動は人材確保を目的としていますが、活動を進めていくことで私たちのモチベーションアップにも繋がっていると感じます。また採用活動を通して職員が自ら考え、様々なアイデアを出し合うことは、あらためて日々、私たち自身がしている保育や教育の姿を客観的に見つめなおし、ひいては私たちのスキルアップにも繋がっていくことだと思います。これからも子どもたちの未来を担う学生さんと二人でも多く出会うことを心待ちにしています。



安心安全な保育のために。

子どもたちが毎日すこやかに楽しく過ごすために、まず子どもたちの安心安全を確保すること、これは私たちに課せられた絶対条件というべきものです。

防犯、交通安全、健康管理…etc. 1件の重大な事故の背後には、29件の軽い事故があり、300件のヒヤリハットが存在する「ハインリッヒの法則」といわれるものがあります。事故を防ぐためには、私たちはさまざまなリスクを未然に防ぐしっかりとした安全対策に取り組む必要があります。子どもたちを危険にさらさないために、私たち法人が力を入れる「安全対策」、その一端をご紹介します。

まだ記憶に新しい滋賀県大津市で起きた、散歩中保育園児らが巻き添えとなった交通事故を受けて、行政が注意喚起をおこない対策を始めました。法人各施設でも、さまざまな想定を考え私たちは散歩時の安全点検について再確認しました。同じような事故が起こらないために…。どのルートが一番安全なのか？ 普段信号を待つ位置でいいのか？ など、実際に散歩コースをたどり検討、見直しをしました。



散歩コースの見直し

各施設で、年間計画を立てて、月1回防災訓練・総合訓練・防災教育・通報訓練・消火訓練等を実施しています。
また、室内遊具や屋外遊具の破損、または危険個所がないか定期的に点検し安全に子どもたちが遊ぶことが出来るように取り組んでいます。

保育施設の看護師の役割

都島友の会の保育施設には現在9名の看護師が在籍しています。月に一度各園の看護師が集まり、情報交換や問題を共有し、話し合う機会を作っています。看護師一人であれば難しいことも、各園の看護師が1つの場集まり、情報交換や意見交換を行うことで、看護師同士の繋がりも深まり、より活発な保健活動を行うことができると思っています。
近年、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、保護者の就労実態に合わせた長時間保育やアレルギーなどの対応が必要とされる子どもが増えていること、障がい児保育の低年齢化など、ニーズも多様化し、その対応が保育施設に求められています。
私たち法人の看護師は、保育施設に勤務する看護師として、保育保健の視点から、子どもの健康と安全を守り、健やかな成長を支えるためには、感染症対策、事故防止、子どもおよび職員自身の健康管理など職員への保健研修の重要性を強く感じています。
子どもが生涯にわたり心身ともに健康な生活を送るための基礎は、乳幼児期に形成されると言われており、子どもの発達過程に即した養護と教育の両面から健康支援を行うことは重要です。このような大切な時期に子どもたちに関わる保育施設に勤務する看護師の役割は大きいと考えています。



看護師連絡会 会議の様子

不審者対応の訓練の様子

2人で対応できる時は、1人が前でおとりになり不審者の意識が前に向いている間に、膝を突き、相手の体勢を崩すことも有効な手段。



“さすまた”がない場合は、近くにある椅子やパーテーションで代用できる!

事前にしつかりと対策を行っているからと言っても、事故が起らないとは限りません。万が一起きってしまった時、その場にいる職員誰もが迅速に適切な対応ができなければいけません。心臓マッサージや人工呼吸、AEDの使用方法についての実践訓練や通報の仕方など、毎年再確認しながら講習を受けています。



緊急時対応訓練

mental-health

職員のメンタルヘルスキアの取り組み

メンタルヘルスとは、「こころの健康管理」を指す言葉です。ストレス社会とも言われる現代では、様々なプレッシャーを受け、メンタル面で問題を抱える方が少なくありません。
メンタルヘルスキアは、働く人すべての「こころの健康」を適切に保ち、いきいきと働くことができる環境を作るための取り組みです。こころが不安定では職務に集中できずに細かなミスを起こし、重大な事故を起こしてしまう恐れもあります。
都島友の会では平成31年度から、法人看護師による予防相談体制を設置、職員のストレスチェック制度の導入など、メンタルヘルスの不調を予防する取り組みを始められています。子どもの健康と安全を守り、健やかな成長を支えるためにも、職員が前向きな気持ちで安定的に保ち、意欲的な姿勢で環境（職場）に適応することが大切だと考えています。



メンタルヘルスキア研修会



メンタルヘルスキア研修会で行われた「心の体操」



平成30年度～平成31年度事業 (令和元年度)

本部事務局長 寄瀬 博光



保育士等キャリアアップ研修



特別養護老人ホームひまわりの郷
1階にオープンした「カフェテリアひまわり」

法人の議決機関である評議員会が、令和元年6月14日に開催され、平成30年度事業報告と決算が承認されましたので、その概要と、併せて平成31年度（令和元年度）事業の進捗状況について報告します。

【建替・環境整備】

令和3年の法人創立90周年に向け、施設の新築建替と改修等環境整備を進めています。
平成30年度は、都島東保育園・こども発達サポートステーションそれいゆの建替工事に着手しました。鉄筋コンクリート4階建て、延床面積は約2,200平方メートル。令和元年12月には、大きなホールを備えた新園舎が完成する予定です。友洲児童センターでは外壁等の塗装、厨房の全面改修を実施。友洲乳児保育センターは、厨房改修を実施しました。



新園舎建替工事の様子

開設16年の特養ひまわりの郷では、経年劣化した箇所の改善とともに、入居者や家族の皆さんの憩いの場

児童発達支援事業は、こども発達サポートステーションそれいゆの建替に伴い、平成30年9月から仮園舎での事業実施となり、平成31年度に、児童デイサービス事業を再編「都島児童デイサービス・児童デイサービスせいこ」しました。

【高齢者施設】

特養ひまわりの郷の平成30年度の利用者は、入居・シヨート計3,740人と前年並みでした。
施設改修により1階に「カフェテリアひまわり」、屋上庭園も新しくなり、入居者が日差しを受け寛いで頂ける場所となりました。

また、介護度が重度化した利用者が、慣れ親しんだ場所であるひまわりの郷で最期を迎えたいという利用者・ご家族のご要望に応えるため、家族控室を設置し、平成30年度から看取介護に取組んでいます。

平成31年度は、新しい「カフェテリアひまわり」を拠点に、地域のみなさんとの繋がりを深めるとともに、入居者の外出の機会や家族との交流の場を設けるなど、入居者サービスの向上に努めることとしています。

また、新たな介護機器・用具を導入し、介護職員の腰痛予防対策にも取組みます。

デイサービスひまわりでも、祝日営業の実施など、利用者の様々なニーズに対応できるようサービス提供に努めることとしています。

【人材確保と処遇改善】

採用事務は、保育士・介護士養成校への訪問、就職フェアへの参加、施設見学会の開催など、引き続き積極

また地域の皆さんの交流の場として、1階の集客室・テラスを改修し「カフェテリアひまわり」を設置。皆様にご利用いただいています。

平成31年度（令和元年度）は、前年度に取得した用地で、都島乳児保育センターの新築建替工事に着手します。法人では初めての木造の建物で3階建て、延べ床面積は約600平方メートル。定員90名（0～2歳児）で令和2年6月に開設の予定です。都島第二乳児保育センターでも、外壁塗装と窓サッシの改修、玄関をリニューアルします。

【児童施設】

幼保連携型認定こども園・保育園10園の平成30年度の委託児童数は15,178人。沖縄の2園は減少しましたが、大阪は都島桜宮保育園の増築に伴う定員増もあり、前年に比べ224人増となっています。0歳～小学校就学までの一貫した質の高い保育・教育を提供するとともに、全園の年長児に特別活動として、プログラミング活動を実施しました。

また平成30年度は、大阪北部地震、台風21号と災害が相次ぎました。施設の被害復旧とともに、災害時の職員体制、保護者への連絡等、対策対応について再確認、強化したところです。

比嘉正子地域貢献事業研修センターで、乳児保育・幼児教育など7分野で、保育士等のキャリアアップ研修が始まりました。他法人の職員を含め7分野で201名が修了。引き続き本年度も職員資質向上に取組んでいきます。

平成31年4月に、都島桜宮保育園が、幼保連携型認定こども園桜宮児童センター（認可定員229名）としてスタートしました。

また、結婚出産を控えている職員が働き続けることのできる環境を整えるなど、長く仕事が続けられる職場づくりを進めていきます。

職員の健康管理とともにメンタルヘルスに取組むため、平成31年度から法人看護師による予防相談体制を設置しました。

【創立90周年】

令和3年3月1日に、法人創立90周年を迎えます。このため、本年度は、各園の歩み・教育保育の内容の整理をはじめ、記念事業計画を策定することとしています。

法人役員を選任

平成29年6月16日に選任された法人役員任期が、令和元年6月14日に満了しました。このため、当日開催された評議員会で選任の決議が行われ、理事8名、監事2名が選任されました。任期は令和3年6月に開催される評議員会終了時までの2年間で、理事会を構成し、法人の業務を執行します。選任後の理事会で渡久地理事が、引き続き理事長に選任されました。

ひまわりの郷1Fに、

『カフェテリアひまわり』、オープンしました。

『多様な人々や世代間との“ふれあい・交流の拠点”をめざして』

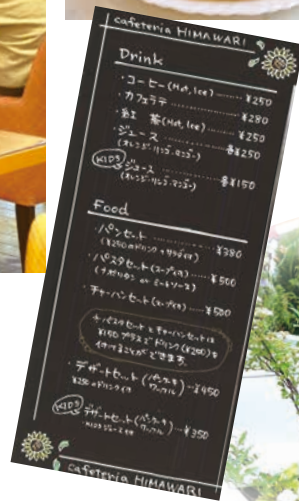
特別養護老人ホームひまわりの郷は開設以来16年の月日が過ぎ、長年の経年変化による施設整備が必要となり建物全体の見直しと改修を行いました。

特に今回、一階ロビーと南側のテラスは全面改修を行い、新たに『カフェテリアひまわり』をオープンしました。

『カフェテリアひまわり』では淹れたての美味しいコーヒーや軽食をご用意し地域の人が気軽に立ち寄れて、誰もが気軽に楽しめる「憩える場所」を目指しました。特に道路に面した南側は文字通りオープンテラス。木陰に腰掛け、ゆったりとした時間をお過ごしいただけます。

メニューも、淹れたての美味しいコーヒーはもちろん、パスタやピッツア、チャーハンなどの軽食やデザート、限定ランチなどバリエーションを増やしてご用意できるようになりました。

日ごろ、地域とかかわる機会が減っている高齢者の方々や子育て中の保護者、若いも若きも誰もが憩い語らえる“地域のふれあひ交流”の場所になつていければと願っています。是非お気軽にお立ち寄りください!!



限定ランチご予約承り中です！ 詳しくはHPをご覧ください。

今号の表紙



- ① 認定こども園 桜宮児童センター
- ② 沖繩松島保育園 牧志公設市場にて
- ③ 都島乳児保育センター
- ④ 認定こども園 都島児童センター
- ⑤ 都島児童館 クリエート月ヶ瀬にて

編集後記

今年度より、ゆんたく編集メンバーが大きく交代し、私自身、初めてゆんたくの編集に携わることとなりました。

編集を進めるにあたり、各園、各施設の活動状況や今後の子どもたちを取り巻く幼児教育・保育等、改めて見つめなおす機会のひとつとなりました。

時代は平成から令和に移り変わり、新時代を迎えました。小学校では2020年より、新学習指導要領が本格的に実施される中、私たち職員も子どもたちにとって今何が必要なのか、歴史ある法人の培ってきた保育のノウハウを大切にしながら、新時代に求められるニーズに添えていけるよう、しっかりと考え、取り組んでいきたいと思えます。

認定こども園 友測児童センター 林 大介